

令和3年度(前期日程)

入学者選抜小論文試験問題

小 論 文

試 験 時 間 90 分

文 学 部

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
 2. この冊子の問題は、2ページからなっています。試験開始後、この冊子又は解答紙に落丁・乱丁及び印刷の不鮮明な箇所など
があれば、手を挙げて監督者に知らせなさい。
 3. 下書き用紙1枚、解答紙1枚があります。解答紙には受験番号を必ず記入しなさい。
なお、解答紙には、氏名や題名などは記入してはいけません。
 4. 解答は、必ず解答紙の指定された場所に記入しなさい。
 5. この冊子の白紙と余白部分は、適宜下書きに使用してもかまいません。
 6. 試験終了後、解答紙は持ち帰ってはいけません。
 7. 試験終了後、この冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。
- ※この冊子の中に解答紙及び下書き用紙が挟み込んであります。

次の課題文を読んで設問に答えなさい。

自然環境はなによりも、人間が生存し、生活を営むために欠くことのできない役割を果たす。人間をはじめとしてすべての生物が生存しうるために大気が存在が不可欠であることはいまでもない。地表を包む大気をもつ天体は、これまで地球のほかにもあまり多くは見つかっていない。地球が誕生してから四十六億年の長い年月が経ったが、その間に、数多くの偶然が重なって、地表を数十キロメートルにわたって覆う大気形成された。その大気は水蒸気、酸素、窒素を主要成分として、二酸化炭素、メタンなどのいわゆる温室効果ガスがごく微量ではあるが存在して、地表大気平均気温を十五度(撰氏)に安定的に維持することが可能となるような構成をもつようになってきた。また、大気の外層を覆っているオゾン層は、太陽からの紫外線をほとんど完全に吸収して、生物が地上で生存できるような条件をつくってきた。

地表大気平均気温が十五度前後に保たれることによって、赤道近くで暖まった湿気を含んだ大気が上昇して、地表のいたるところに降雨をもたらす主要な原動力となってきた。降雨の私たちで、水が地表のいたるところに循環することによって、土壌、森林、草原が形成され、さまざまな生物が生存しうる条件が作り出され、地球上にはいたるところに美しい自然が形成されている。私たちの知っている天体のなかに、このような美しい自然が作り出されている例は、地球の他に存在しない。

自然環境を経済学的に考察しようとするときに、まず留意しなければならないのは、自然環境に対して、人間が歴史的にどのようなかたちで関わりをもってきたかについてである。この問題は、広く、文化をどのようにとらえるかに関わるものであって、狭義の意味における経済学の枠組みのなかに埋没されてしまつてはならない。

「文化」というとき、伝統的社会における文化の意味と、近代的社會において用いられる意味との間に本質的な差違が存在することをまず明確にしておきたい。

一八五四年、アメリカ・インディアンの酋長シャトルがいったといわれるつぎの言葉は象徴的である。

「白人がわれわれの生き方を理解できないのはすでに周知のことである。白人にとって、一つの土地は、他の土地と同じような意味を持つ存在でしかない。白人は夜忍び込んできて、土地から、自分が必要とするものを何でもとってしまう余所者よせものにすぎないからである。白人にとっては、大地は兄弟ではなく、敵である。一つの土地を征服しては、また次の土地に向かってゆく。……白人は、自らの母親でも、大地でも、自らの兄弟でも、また空までも、羊や宝石と同じように、売ったり、買ったり、台なしにしてしまつたりすることのできる「もの」としか考えていない。白人は、貪欲に、大地を食いつくし、あとには荒涼たる砂漠だけしか残らない」

この問題について、一九九四年七月、ナイロビで開催されたIPCC(Intergovernmental Panel on Climate Change: 気象変動に関する政府間パネル)の「気象変化にかんする倫理的、社会的考察」のコンファレンスで発表された、アン・ハイデンライヒとデヴィッド・ホールマンの

論文「From Sacred Being to Market Commodity : The Selling of the Commons?」（売りに出されたコモンズ——聖なる存在から市場的財へ）には含蓄深い考察が展開されている。

ハイデンライヒ・ホールマンは、文化について、二つの異なった考え方が存在することを指摘する。

伝統的社会では、「文化」はつぎのような意味をもつ。「社会的に伝えられる行動様式、技術、信念、制度、さらに一つの社会ないしはコミュニティを特徴づけるような人間の働きと思想によって生み出されたものをすべて含めて、一つの総体としてとらえたもの」を意味する。他方、近代社会においては、「文化」は「知的ならびに芸術的な活動」に限定して考えるのが一般的である。

マサイ族の若者が「文化」というときには、同年代の若者たちのことを想起し、伝統的な制度のもとで、社会がどのように組織され、自然資源がどのように利用されているかに思いをいたす。しかし、北ヨーロッパの人々が「文化」というときには必ず、芸術、文学、音楽、劇場を意味している。

（宇沢弘文『社会的共通資本』による。原文を改めた箇所がある。）

※注 コモンズ……ある特定の人々の集団あるいはコミュニティにとって、その生活上ないし生存のために重要な役割を果たす希少資源、あるいはそのような希少資源を生み出す特定の場所。灌漑用水、漁場、森林、牧草地、焼き畑農耕地、原野、河川、海浜など。さらに、それらの利用に関して特定の規約を決めるような制度を指すこともある。

設問

傍線部における筆者の考え方を課題文に即して説明し、「文化」と「自然環境」に対するあなたの意見を1000字以内で述べなさい。